

大会宣言

JMIUは7月9日、10日、第46回定期全国大会を開催し、「春闘再生元年」と位置付けた2011年春闘をはじめとするこの一年間のたたかいを総括、2012年度運動方針を確立しました。

定期全国大会は、東日本大震災と東京電力福島第一原発の重大事故によって、日本の社会と政治のあり方、大企業をはじめとする企業のあり方、さらには労働組合の役割や一人ひとりの生き方をも鋭く問われるなかで開催されました。

大会では、「脱原発」「自然エネルギー政策への転換」を明確にかけるとともに、利益・効率優先の「構造改革」路線、大企業中心の社会・政治を転換し、「連帯と助け合い」を基礎とした、労働者・国民のいのち、雇用、くらしと地域社会を大切にするあたらしい社会・政治の実現をめざす「新21世紀宣言」（骨子）を提起しました。これからの一年、草の根の運動を職場と地域からおこし、「原発ゼロ」をめざす国民的なたたかいの一翼を担い奮闘することを決意しました。

「春闘再生元年」をかかげた2011年春闘では、それぞれが「挑戦する課題」をかかげて、全員参加による職場の要求づくり、団結づくりを前進させました。大震災の後も、「震災救援も春闘も」と、職場と産別のたたかいを強め、賃上げでも、団結・組織力強化の課題でも、新たな経験・教訓を生み出しました。

大会討論を通じ、「春闘再生元年」のたたかいの前進を互いに確信しあうとともに、「春闘再生元年」はまだはじまったばかりであること、この夏・秋からの新年度のたたかいのなかで、強大なJMIU建設に全力をあげながら、2012年春闘であらためて「春闘再生」に挑戦することを決意しました。

大会では、大震災に立ち向い、くらしと雇用をまもり、企業の将来展望を切り開くこと、組織拡大の飛躍をつくり、1万人JMIUを実現し、過去最高の峰をめざすこと、震災復興・エネルギー政策の転換、雇用と社会保障など、大企業中心から労働者の雇用とくらしをまもる政治への転換の三つの重点課題をかかげるとともに、すべての活動、たたかいを「団結・組織力強化、働き手づくり」に結実させることを誓いました。

大震災・原発事故という未曾有の危機のなか、「被災者本位の復興を」「原発はなくせ」の大きな世論が起きています。一方で、自らの利益・権益をまもろうとする財界・大企業の巻き返しも激しくなっています。大企業中心の政治・経済・社会か、それとも労働者・国民のいのち、雇用、くらしをまもる新しい社会・職場への転換か、いま激しいつば競り合いがはじまっています。

時代の大きな転換点にあるいま、JMIUは、労働者・国民の願いと運動に連帯し、労働組合の役割・使命を果たすために、強大なJMIU建設をめざし、組織の総力をあげて前進することを宣言します。

2011年7月10日

全日本金属情報機器労働組合
第46回定期全国大会